

# 喪中・忌中とは

## 喪中(もちゅう)とは

近親者の逝去に伴い一定期間喪服を着用して故人の冥福を祈って慎ましく生活を送ることをいい、「喪中」とはその喪に服する期間(服喪期間)を言います。

### ■どれくらいの期間なの？

現在では一周忌(死去一年後)までの一年間を喪中とするのが一般的です。

## 忌中(きちゅう)とは

「忌中」とは、忌明けまでの一定期間(忌中の期間)を指し、その間は一切の祝行事を慎むことを言います。玄関先に「忌中」と記した札を取り付け、仏壇や神棚の扉を閉めておくのが決まりです。神棚は扉の合わせ目に半紙を貼って「神棚封じ」をします。

### ■どれくらいの期間なの？

忌明けまでの期間は宗教により異なりますが、佛教では「中陰供養」の考えから四十九日間を「中陰」として、初七日・二七日・三七日・四七日・五七日・六七日・七七日と七日ごとに法要を行ない、四十九日目の法要(七七日忌)である「忌明け法要」または「満中陰(まんちゅういん)法要」をもって忌明けとします。

現在では初七日以降の二七日～六七日忌法要を省略するケースが多いようです。

### ■ひとくちMEMO■

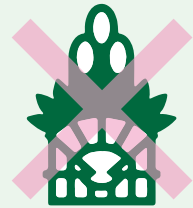
御中元などを送るのに当方や先方が喪中又は忌中期間中であっても、贈答をすることは一向に差し支えありません。

※地域ごとの古くからの風習や宗教・宗派独自の決まりなどによって上記と異なる場合があります。冠婚葬祭の儀式ごとは、いずれも地域の慣習に準じて行うのが基本です。

## 喪中・忌中の間にしてはいけない事



神社への参拝は控える



正月飾りやお屠蘇でのお祝いなどは控える



結婚式への出席など、華やかな席は控える

## 知っておくと役立つ知識

親族への儀式招待や金品贈答の範囲は行事の重要性により異なるのが一般的ですが、婚礼や葬儀においては、両親・兄弟姉妹・祖父母や叔父・叔母・伯父・伯母(葬儀に限り、本人及び配偶者の子供・孫)までを招待範囲とするのが一般的で、その他の血族・姻族については何処までをその範囲とするかは招待側の都合や考え次第となります。

### 喪中はがきを出す親族の関係について

「喪中はがき」を差し出す際は、どこまでを「喪中」とするかについても基本的には本人の考え方によりますが、配偶者・子供、本人及び配偶者の両親・兄弟姉妹・祖父母までを範囲とするのが一般的です。尚、喪中はがきを差し出す場合は、11月末日頃までに届くようにするのが礼儀です。

**血族** 血のつながりのある者、すなわち血縁者。  
**姻族** 婚姻によって発生する親族。  
数字は親等数

